

洋書輸入協会会報

VOL. 15

NO. 12

(通巻176号) 昭和56年12月

理事会報告

10月26日(月)

(一) 11月12日(木)開催予定の懇談会について打合せ。

(二) 賛助会員の入会承認

トーマス・ネルソン社東京事務所(代表者鈴木伸介、世田谷区代田4-10-19、電話322-4874)の入会を承認。

(三) 化学情報協会と書類とをとりかわすことを承認。

(四) その他。

11月12日(木)

(一) 当日の懇談会の運営について打合せ。

(二) 化情協とJBIAが覚書を11月11日付で取り交わしたことが事務局より報告された。

(三) その他。

洋書輸入協会懇談会

11月12日(木)午後3時より、竹橋会館11階丹頂の間にて懇談会が開催されました。メイン・テーマの「海外小口送金」について関心が高まっていた折から、会員58社、70名のご出席があり盛会でした。

栗原光輝氏(洋販)の司会で会は進められ、福田忠理事

長代理(丸善)の挨拶があり、次いで山川隆雄企画渉外委員長(USACO)から外貨預金についての経過報告がなされました。そののち、用意されていた外貨預金および郵便為替・振替の資料と、10月に行ったアンケートの集計表を参考に、小口送金の実務的説明に移りました。外貨預金についての解説と活発な質疑応答が熱心に重ねられたのち、郵便為替および振替を利用した送金について、突然ではありましたが、鈴木和夫氏(E.メクレンブルグ商会)にお願いして、説明とご経験談を披露していただきました。多くの小口送金を必要とする洋書輸入の特殊性から、手数の簡素化と経費の節約が大きな課題となっておりますが、既に実績を積まれている方も、またこれから利用される方にとっても大いに参考になったことと思います。協会としても、外貨預金手続きの、より一層の簡素化を図っておりましたが、その後の経過につきましては、JBIAでご通知申し上げた通りです。

海外小口送金についての懇談は、盛況のうちに4時40分に終了いたしました。小休憩ののち、その他の懇談に入りましたが、協会としての統計や資料集集の問題、海外出版社および業者の動向などについて懇談し、窓越しに見る街のネオンの明りが目につく頃、相良廣明氏(紀伊國屋書店)の閉会の挨拶があり散会いたしました。

(M.S.記)

理事会報告..... 1	外国出版社紹介 No.85 4	Winthrop 社解散 6
洋書輸入協会懇談会..... 1	憐紀伊國屋書店会長田辺茂一氏 フランス芸術文化勲章受章..... 5	Dutton 社の買収先決まる 6
東京外郵便協同協議会見学会記..... 2	Book Review No.79 5	来日外人名簿..... 6
フランクフルト書籍展視察報告... 2	海外ニュース	総代理店ご案内..... 7
STM セミナーの開催 4	英国出版社の総売上高..... 6	広告..... 8

東京外郵通関協議会見学会記

通関委員会 栗原光輝(洋販)

昨年の見学会は新日鉄の君津工場を選んで、千葉を遙かに越えた房総で世界的な工場を見せて頂いた。今年も平生見られない所を、という希望を出して、10月29日(木)大蔵省の印刷局が選ばれた。紙幣と切手を印刷する工場である。

この印刷行程に与る人は、誰も印刷されて出てくるものを「お金」と考えてはいけない。精巧な作品を厳密な準備のもとに、刷り上げる、それを検査するというように神経を集中しなければ、妙な気持ちになる。

検査をしているのは若い女性約100名、1万円を16枚並べたシートを、豪華なポスターの色調を見るような顔をしている。色のむら、或は毛筋一本のような傷が、たとえ16枚のうちの1枚にかかっている、16枚1組のシートをはねてしまう。見ている我々は、「その程度の傷は結構ですから、頂けないでしょうか」と申し出たいくらいであった。この検査はコンピュータでも手が出ず人の目を頼るそうであるが、彼女達の机の上に届く1回500枚のシートは8000万円の単位である。シートの右端と左端に同時に計数器を働かして、双方に「500」と同一数字が記録されないと、このシートの束は移動できない仕組みになっている。

「おさつ」は国の顔と云える。手に触れた紙質にパリッとした腰がないと、頼り甲斐がない。デザイン、色調、何れもバランスが欲しい。日本の「おさつ」は良く出来ていると思うが、明治時代にドイツに製作を依頼してから約100年、努力改良の歴史を細かく教えられた。

四国、中国を中心として、和紙の原料「みつまた」を求め、マニラ麻を混ぜて、最初の行程にはいる。原図の手彫りの原版からメッキ版の複数の原版が作られ、ドイツ製と日本製の特別な印刷機で、表裏を合せると14~15色の色を使ってシートが刷られる。検査を通過したシートの「おさつ」には番号が入れられるが、断裁したあと再検査がある。この再検査でハネられたものに対する補充の「おさつ」には交換の記録が一点一点詳しく記入される。

経済のメカに弱い小生は、この1万円札が20円程度で日銀へ渡される、と聞いて、日本銀行の利益のはばはどうなっているのだろう、と考えてもその先は分らなかった。

工場の出口の守衛詰所の掲示板に、「拾得物・紙幣若干枚」とあったのが気になる。

見学を終えた場所に売店があり、1万円札図案の「おせんべい」を売っていた。本物を頂いて帰れないので、殆んどの参加者が、この「おみやげ」を買い求めた。(了)

フランクフルト書籍展視察報告

白鷗洋書 秋山昭夫

協会としての本格的なツアーは、数年前から種々の事情により組めなくなりましたが、それぞれのコースと日程で顔なじみの方々が秋のフランクフルトに集まりました。洋販の渡辺社長をはじめ数人で宿泊したサボイホテルは、中央駅に程近い便利のよい所ですが、普段はシングル^{バーン}の部屋に補助ベットを持込んでインスタントのツインに仕立ててあり、ブックフェア開催期間中の強気な商法を露骨にみせていました。

到着の翌朝、中央駅の薄暗く広々とした「終着駅」風の構内を横切り、オープニング・デーのメッセ会場に向いました。この季節以後の当地はどんよりした曇空の肌寒い日が多く、「フランクフルトの偉大なる息子」と呼ばれる文豪ゲーテが南国イタリアの太陽にひたすら憧れた事も頷けました。日本出発前、メッセ事務局の周到な配

慮で送られて来ていたフリーシーズン・チケットを胸に着け、部厚い出展ブースの索引を受取って会場に入りました。色とりどりの幟が立並び、遊園地のような電気バスが各展示棟の間を廻っている様子はいつものメッセ風景です。

戦禍の跡未だ生々しい1949年に透間風の吹き込む聖パウロ寺院の廊下で、ささやかにつつましく始められたというこの書籍展も、60年代後半の学生運動の高まりをはじめ、様々な政治的、社会的紛糾の影響を蒙りながら、今年で33回目を迎え、いまや参加国数、出展社数、展示スペースなどあらゆる面で世界最大の重要なフェアに成長しています。この事業に発足当初から関与して来た人々の感慨のほども偲ばれます。

数棟に分れた8万平方メートルという展示スペースの全てを見尽すことは到底不可能に近く、各々自社の取扱いジャンルに関連するホールを中心に見廻るようですが、私は橙色のシンボル・サインで示されたアートのホー

ル8に重点を置く事にしました。

会場を一巡しての個人的印象は、数年前と較べ心なしか一般の入場者を混えたフェスティバル的な活気が薄れ、業者の為の、商談のためのメッセという感じが益々深まって来ている事でした。肯定的にみれば、実質的で夾雑物のない本来の姿とも言えませんが、私には「無用の用」とでも言うか、商談には直接関係のない学生、愛好者など一般の入場者もフェアに活力をもたらし基盤として重視してゆくべきではないのか、と感じました。

各ホールには、モーゼルワイン専門の洒落たスタンドやフランクフルターソーセージなどの軽食を売るスペースが所々に設けられて居り、胸に出版社やブックセラーのカードを着けた国籍も様々な人達がいつも賑やかに屯しています。こうしたコーナーで、昨秋三洋出版の故鈴木社長と偶然お逢いし持参のおにぎりを御馳走になった事を思い起しました。

会場メインゲートに入ってすぐ右側に目立たぬ入口を持つ、MESSE-GASTSTÄTTE で昼食をとりながら、やや疲れた脚を休めた後、グロッソハウス・ウェーグナー社のブースにゲルハルト・クルツェ氏を訪ねました。氏は同社の社長であると共に書籍展の役員でもありますので、JBIAの会報にレポートを書くについて参考になりそうなデーターと資料があれば知らせて下さるよう依頼しました。

5日間をフランクフルトで過した後仕事を離れ列車でハイデルベルグに向いました。昼過ぎから散歩に出たマルクト広場では、折からの小雨の中に色とりどりのパラソルを立て、野菜や花などを商う大きな市が開かれて居り、1400年創立の黒々としたバロック建築の聖霊教会と趣のあるコントラストを成していました。町の中心のハウプトシュトラッセを1時間ほどぶらついて、市のあった広場を通りかかると先ほどの賑わいが嘘のように、綺麗に清掃された古い敷石だけが雨に濡れていました。翌朝、急勾配の近道を敬遠しゆるい坂道を選んで古城に登りました。観光客の訪れにはまだ早い時間のため、ネッカーの流れと落ち着いた渋い色調の古い町並を一望に見下せるアルタンという大テラスも静寂そのものでしたが、突如町中すべての教会から日曜ミサの鐘が一斉に鳴り出し、重なり響き合う音が2、30分程も続いてまさに中世さながらの世界に身を置く思いがしました。

帰国後、2週間ほどしてクルツェ氏から別表の詳細なデーターを受け取りました。その他にも、ドイツ出版業

界の置かれた厳しい現状を報ずる資料などもあり、会期終了直後の繁忙の最中にも拘らず依頼に応じてくれたことにいつに変わぬゲルマン的确实さを感じました。この表によると、極く少数乍ら入場者数は減少していますが、他の資料ではいわゆるプロの入場者数、成約した商談の額と件数はむしろ増加して居り、メッセ事務局が「プロの為のメッセ」という方針を意図的に打出した事が結果的には成功していると報じています。同時に、このメッセも種々のファクターにより1つの転換期に達しつつある事も強調されていました。

統 計

1. 出品社	1981	1980
西ドイツ	1.410	1.365
東ドイツ	55	51
その他の諸国	4.017	3.886
総 計	5.482	5.302
内、単独参加	3.924	3.912
共同参加	1.558	1.390
2. 展示面積(m ²)	79.700	80.100
3. 出品タイトル数	285.000	285.000
内、新刊	84.000	86.000
4. 入場者数	174.756	187.149
5. 出品国	85	93

出品社——その他の国の内訳(抜粋)

	単独参加	共同参加
Austria	90	82
Belgium	31	53
Canada	51	58
Denmark	49	14
France	225	165
Great Britain	549	5
India	27	90
Italy	184	56
Japan	46	15
Netherlands	205	-
Spain	66	127
Switzerland	186	163
United States	524	-

来年の第34回書籍展は10月6日から11日にかけて
"Yesterday's Religion in Today's World" のモットー
のもとに開催される予定です。(写真は7ページ)

STM セミナーの開催

去る11月19日20日の両日にわたり九段のホテル・グラ
ンド・パレスに於て STM Seminar on the Far Eastern
Market for STM Books and Journals が行われました。
STM とは International Group of Scientific, Technical
and Medical Publishers の略です。

JBIA や日本自然科学書協会のメンバーの方にも御案
内いたしましたので、外国からの参加者50名も含め130名
以上の方が出席されました。

プログラムは下記の通りですが、フロアーからの質問
や発言も多く仲々盛会でした。議事録は STM から会員
には配布されますが、会員外の参加者で御希望の方は

Mr. Paul N. Asser

STM, Keizusgracht 462,

1016GE Amsterdam

に御連絡下さい。なお、STM ではこのようなセミナーを
年2回開いており、総会は例年フランクフルト書籍展の
時に開きます。入会御希望は Mr. Asser(事務局長)に御
問合せ下さい。(医学書院 椿孝雄)

プログラム

1. General outline and statistics of the market and distribution of imported stm books and journals in Japan by Takayuki Shoji (Maruzen Co., Ltd., Tokyo)
 2. Imported stm books and journals in Japan: marketing, pricing, requirements, availability by Teruzo Kubota (Kinokuniya Co., Ltd. Tokyo)
 3. Marketing stm books for translations and co-editions by Yu Kanehara (Igaku-Shoin, Ltd., Tokyo)
 4. Stm books and journals for the academic and industrial library market by Yoshimitsu Tohmatsu (Shin-Nippon Steel Co., Kanagawa)
 5. Promotional activities in Japan by representatives by Tsutomu Kato (Elsevier Science Publishers, Tokyo)
 6. General aspects of Japanese scholarly publishing: historical and statistical view by Ms. Susan E. Schmidt (University of Tokyo Press, Tokyo)
 7. Marketing stm books and journals in Korea by I. H. Liu (Panmun Book Company, Seoul, Korea)
 8. Marketing stm books and journals in the People's Republic of China. Text by Ding Bo (China National Publications Import and Export Corporation. Beijing) distributed among the partici-
- (6ページにつづく)

外国出版社紹介 No.85

Ediciones Altea

Principe de Vergara 84, Madrid—6. Spain

Altea 社は創立されて10年に満たない程、歴史は浅い。しかし Altea 社が属するところの教育界と深い関連をもつ Timon グループ、及びその中の Santillana 社はスペインで最も古くから教育出版にたずさわってきた、いわば老舗というべきものである。Santillana 社の出版物の中から1973年以前に発行された児童・若者向の図書をカタログに組入れ、それにオリジナルの出版物を加え、はじめられたのが、Altea 社である。

新刊の出版は年間20~25%でその75%を自社で製作している。プログラムの編集方針は幼児から中学生までを対象とし、「ノンフィクション」の3つのシリーズ

を除くと、基本的には、「activities books」と「informative book」という2つの系統に分類される。また販売活動はスペイン語圏の市場はもちろんのこと、コピーライトによって外国語に翻訳出版されており、ヨーロッパやアメリカの出版社との協力により共同編集されている。

チェコの BIB、アンデルセン賞、フランスのニース・ブック・フェアなどが語るように Altea 社の作品群は、スペインは言うに及ばず全世界でも評価され、児童、若者向図書の中で確固たる位置をきずきつづけている。

㈱紀伊國屋書店会長 田辺茂一氏 フランス政府より芸術文化勲章を 受章

田辺茂一氏は、10月31日に Chevalier des Arts et Lettres (シュヴァリエ・デ・ザール・エ・レトル、芸術文化勲章)を受章されました。永年にわたるフランス出版物の輸入及び日仏文化の交流に貢献した業績

と共に、日本ペンクラブ理事として、また作家としての多年の活動に対し、フランス政府より贈られたものです。

当日は、田辺茂一氏が入院中のため、代って長男礼一氏(同社取締役)に対し、フランス大使ドーフレーヌ・ド・ラ・シュベリエ氏より授与されました。洋書輸入協会会員一同よりお喜び申し上げます。

Book Review No.79

徳永康元編

「世界の図書館」

丸善 1981 ¥2,200

本書は丸善の雑誌「学燈」に1977年2月から1980年12月にわたる約4年間に連載されたシリーズ「世界の図書館」を1本にまとめたものである。雑誌には51篇の文章がのったが、本書にはその中の39篇を収録している。一国一館がたてまえではあるが、フランスとソ連はそれぞれ2館、西ドイツは3館、アメリカは5館がとりあげられている。一国一館といっても、アイルランド、オランダ、スイス、メキシコ、オーストラリア、インドについては、それぞれの国の複数の図書館を紹介しているし、一都市の複数の図書館を紹介している記事もある(オスロ、ウィーン、ワルシャワ)。イギリスでは大英図書館ではなくて、ケインブリッジ大学図書館がとりあげられているように、各国の国立図書館を紹介しようとするものではない。ミラノ市立図書館についての記事に「これは、あくまで私の馴染みの図書館ということであって、これがイタリア最良の図書館などというのでは決してない」とあるように、それぞれの筆者が通いなれた図書館をとりあげている。

「あとがき」にわが国にとって、「まだまだ欧米の図書館に見習うべきことが多いが、世界のどこにどんな図書館があるか、われわれは案外知らないのである。例えば蔵書の特長とか、閲覧手続きなど具体的な案内記のようなものがほしい」とあるのが、本書のねらいを示している。だからそれぞれの紹介を読むと、通いなれた馴染みの図書館が紹介されているので、なかなか面白い。ケインブリッジ大学図書館、パリ国立図書館、アメリカの議会図書館と国立文書館などについての記

事は、本書のねらいをよく実現しているといえよう。そして、それぞれの紹介文が、同時に各国の図書館文化ともいべきもののあり方、ひいてはそれぞれの国の文化のあり方をしらせてくれるので、いっそう興味をそそるのである。とくに私が感心したのは国立オスロ大学図書館の記事に「利用者にとって最も有難い図書館サービスは、何ととっても、一カ所の図書館にいて必要な本が手に入るということだろう。本を求めて図書館から図書館へと歩き歩くのではなく、本の方を利用者へむけて移動させるのだ」とあることである。全く「まだまだ欧米の図書館に見習うべき」点が多いことがよくわかる。またオスロ市立ダイクマンスケ図書館のチャイルド・セクションの紹介では、人口400万の小国が、図書館文化の上では全くの大国であることが理解できる。そういう点でもいろいろ教えられるところの多い本である。

「はじめ」に「アジア諸国の図書館についても、今後ますます日本への紹介のなされることが望ましい」とあるし、また有名な図書館で本書に洩れたものが多いつかある、とあるが、それが本書の欠点といえよう。アジア諸国については他日を期してもらいたいが、ヨーロッパでは、大英図書館がぬけていることもさびしいし、一館もとりあげられていない東ドイツ(ドイツ民主共和国)には、プロイセン王国以来の伝統をひく国立図書館がベルリンにあるし、ライプチヒには全世界のドイツ語出版物とドイツ語から各国語への翻訳を収集しているドイッチェ・ビュッヘライがある。とくに後者はとりあげてほしかったと思う。(M.I.)

pants. Questions will be answered by Li Yao-Chong (CNPIEC, Beijing)

9. Marketing in the Far East by a panel chaired by Ryoji Fukada (Elsevier Science Publishers, Amsterdam). Members invited to participate in this panel are Takao Tsubaki (Igaku-Shoin, Tokyo; member of the STM Group Executive), Ms. Jolanda von Hagen (Springer-Verlag, Berlin), Eric Newman (Butterworths, Singapore) and Junichiro Minagawa (Academic Press, Tokyo).

海外ニュース

「英国出版社の総売上高」

Publishers Association 発行の Quarterly Statistical Bulletin, Sept. 1981 による英国出版社の概算総売上高 (1972—1980年) が Bookseller に掲載された。

		UK PUBLISHING INDUSTRY TURNOVER ANNUAL SALES (£'000's)									
		1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	
概算 総額	国内	136675	145486	176370	220635	251534	284779	330216	387131	431355	
	海外	74850	84620	105138	121773	156766	182257	191209	195302	212858	
	計	211525	230106	281508	342408	408300	467036	521425	582433	644213	
概算 総額	国内	186288	198297	240392	302270	347117	398406	475181	557856	626759	
	海外	102021	115337	143303	166829	216337	254978	275150	281430	309283	
	計	288309	313634	383695	469099	563454	653383	750331	846275	936041	

概算総額は調査に参加しなかった出版社のデータを補うため下記の係数を乗じて算出されている。

1972—74=1.363, 1975=1.370, 1976=1.380, 1977=1.399, 1978=1.439, 1979=1.441, 1980=1.453

尚書籍輸出業の売上は全く除外されているため数字上では、これらの輸出売上は国内売上げの中に含まれている。又、海外にある子会社の出版及び売上げが含まれてないためこれらの数字が加算されれば、1980年の売上総計は£936百万から£1,000百万以上に増大すると推測される。

(The Bookseller, 10月31日号より)

—丸善提供—

「Winthrop 社解散」

Prentice-Hall 社は、去る 9 月30日付で子会社の Win-

throp Publishers 社を解散し、その資産を Little, Brown 社に売り渡した。Little, Brown 社は買い取った200タイトルをリプリントするが、Winthrop の社名は消滅する。

Winthrop 社は、1969年に Paul E. O'Connell と James J. Murray によって Prentice-Hall 社の子会社として創立され、人文、社会科学やビジネス関係、データ・プロセッシング関係の大学向テキストを出版してきた。

解散の理由は明らかにされていないが、25名の社員は全員解雇され、役員も職を失った。

(Publishers Weekly, 10月16日号より)

「Dutton 社の買収先決まる」

1975年に Dutton 社を買収したオランダの Elsevier 社は、今春 4 月に Dutton 社を売りに出して買い手を探していたが、ようやく相手が決まったようである。買い手は、ニューヨーク州の電力局の会長である John S. Dyson で、10月30日に Elsevier 社と正式契約締結後 E. P. Dutton 社の社主となる。なお、Dutton 社は、ニューヨーク市の投資会社 Dyson-Kissner-Moran Corporation の系列会社になる由。

Dutton 社の株の D-K-M 社への売り渡し価格は明らかにされていないが、200万ドル未満とその筋では推定している。なお、7 月に報じられた Volt Information Sciences, Inc. との話はお流れになった。

(Publishers Weekly, 10月23日号より)

—紀伊國屋書店提供—

来日外人名簿

10月下旬 Mr. Ed. Summerson, Sales Manager, Pitman Books Ltd., Hong Kong

11月上旬 Mr. Henry J. Secor, Director, Collier-Macmillan International Inc., New York

” Ms. Norma Newman, Sales and Promotion Manager, International Div., J. Wiley, New York

11月中旬 Mr. Harlan Kessel, Sales and Promotion Manager, University of California Pr., Berkeley

” Mr. Charles R. Ellis, President, Elsevier North-Holland, Inc., New York

- " Mr. F.W.B. van Eysinga, President, Kluwer Academic, The Hague
- " Mrs. Jolanda von Hagen, Sales Director, Springer, Berlin
- " Mr. Stanley A. Lewis, Taylor & Francis, London
- " Mr. Patrick McLoughlin, Elsevier Sci. Amsterdam
- " Mr. Oluf V. Møller, Managing Director, Munksgaard Ltd., Copenhagen
- " Mr. Harald Schwer, Geschäftsführer, Schattauer, Stuttgart
- " Dr. E. van Tongeren, Elsevier, Amsterdam
- " Mr. J. Vermeulen, Production & Sales Manager, Pudoc, Wageningen
- " Mr. Eric A. Swanson, Vice President, Alan R. Liss Inc., New York
- " Mr. Jean-Pierre Vinet, Directeur, Livres-Hebdo, Paris
- " Mr. Paul Nijhoff Asser, Secretary, STM, International Group of Sci. Tech. & Medical Pub., Amsterdam
- " Mr. Jan F. Hattink, D. Reidel Pub. Co., Dordrecht
- " Mr. Frank Versaci, Direktor, Marcel Dekker AG, Basel
- " Mr. D.J. Mortimer M.A., Managing Director, Longman Group Ltd., Harlow
- " Mr. Peter Owen, Managing Director, Peter Owen Ltd., London
- " Mr. Byron S. Hollinshead, Jr., President, Oxford University Pr., New York
- " Mr. A.A. Smailes, Managing Director, Journal Div., Butterworth Sci. Ltd., Guildford
- " Mr. Eric Newman, Regional Manager, Butterworth & Co. (Pub.) Ltd., Singapore
- " Mr. Robert Welham, Divisional Managing Director, Longamn Group Ltd., Harlow
- " Mr. Peter F. Shepherd, Marketing Director, Associated Book Pub. (UK) Ltd., Hampshire

- " Mr. C.I. Pedersen, Director of Publishing, Institute of Physics, Bristol
- " Mr. C.K. Timms, Director, MTP Press Ltd., Lancaster
- " Mr. Paul E. Feffer, President, Feffer and Simons, Inc., New York

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がありましたのでお知らせします。お手許の Agent List にご記入ください。

- 丸 善(株) ☎272-7211
- Gower's Medical Colour Atlas Series, about 40 titles (Gower Medical Pub.)
- Fishbein, L.-Drugs of Abuse. (Chromatography of Environmental Hazards, Vol. 4) (Elsevier)
- ca ¥27,000
- Keynes, W.M. & R.G. Keith (eds.)-The Pancreas. (Tutorials in Postgraduate Medicine) (Heinemann Med. Pub.). ca ¥11,520
- Coppleson, M.-Gynecologic Oncology: Fundamental Principles and Clinical Practice. (Churchill Livingstone) ca ¥51,200
- Indian Books in Print 1981, 3 Vols. (Indian Bibliographies Bureau/UBS) ca ¥27,000
- Webster's Legal Secretaries Handbook. (Merriam-Webster) ca ¥3,390
- Ogden.-Skeletal Injury in the Child. (Lea & Febiger)
- ca ¥38,750
- Advances and Standards of Neurosurgery, Vol. 8 (Springer) ca ¥19,320



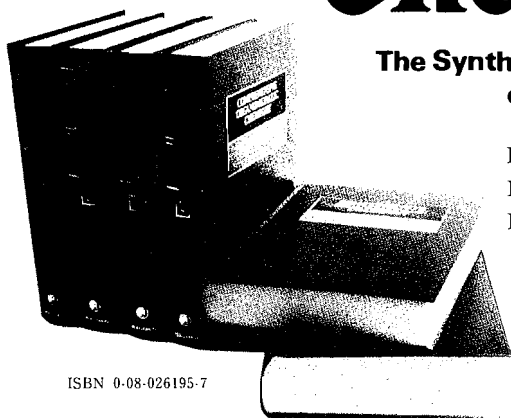
フランクフルト書籍展会場

有機金属化学全書

近日刊行

Comprehensive Organometallic Chemistry

The Synthesis, Reactions and Structures
of Organometallic Compounds



ISBN 0-08-026195-7

Editor: Sir Geoffrey Wilkinson, FRS
Deputy Editor: F. Gordon A. Stone, FRS
Executive Editor: Edward W. Abel

全6巻 7,500頁 272×188 mm

1982年春全巻一括刊行予定

予価450,000円

- Comprehensive Inorganic Chemistry (1973), Comprehensive Organic Chemistry (1979) に続いて、英国 Pergamon 社から刊行される最高レベルのレファレンス・ブック。
- 国際的に著名なジョフリー・ウィルキンソン卿 (英国学士院会員、ノーベル賞受賞) を編集主幹に迎え、世界11ヶ国から100名をこえる第一線の研究者が執筆にあたりました。
- 過去数十年間にわたり飛躍的な進展をみせた有機金属化学のレファレンスとして、最新の研究・開発の成果を集大成しています。
- 研究、産業、教育など各方面の化学者に基本的情報を提供します。
- 工業上の応用については特に力を置いています。
- 第1巻から第4巻までは、周期表に従って分類された金属の有機化学について詳述します。
- 第5巻は有機合成と触媒作用における有機金属化合物の利用について扱います。
- 第6巻は索引にあてられ、件名、化学式、著者名による索引、回折法によって決定された構造の索引、関連論文、書籍の索引が収められています。



Pergamon Press

日本総代理店 ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

昭和56年12月 通巻第176号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫
☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901
☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎ 371-5329